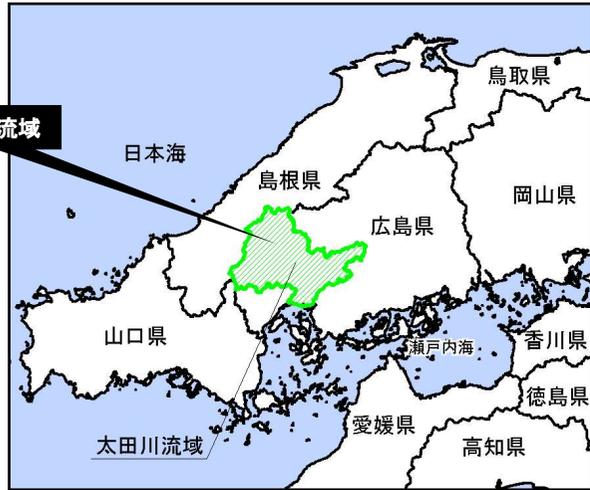


# おおたがわ 気候変動を踏まえた「太田川水系河川整備基本方針」変更の概要

- 長期的な河川整備の目標となる洪水の規模（基本高水）を基準地点玖村において、12,000m<sup>3</sup>/sから14,300m<sup>3</sup>/sに変更し、この基本高水の流量を河道と洪水調節施設等に配分。
- 気候変動の影響による洪水外力増大に対し、流域治水の視点も踏まえ、流域全体を俯瞰した上で流域内の洪水調節施設や貯留・遊水機能の確保等幅広く検討を実施するとともに、河道配分流量の増大の可能性について、河川環境や河川利用、地域社会への影響等を総合的に勘案して検討した結果、洪水調節流量を6,300m<sup>3</sup>/s、河道配分流量を8,000m<sup>3</sup>/sとする。
- 気候変動に対応した河川整備の加速化を図るとともに、既存施設の有効活用や災害リスクの高い区域の土地利用の抑制等、あらゆる関係者による流域治水の取組の更なる推進を図る。

## 位置図



## 河道と貯留・遊水機能確保による流量配分の考え方

### 【中流域・上流域】

河川の両岸に資産が集積し、ゼロメートル地帯が広がる玖村地点より下流域での流量増大が困難であるため、既存ダム等の洪水調節機能の最大限の活用や支川も含めた流域全体での貯留・遊水機能の確保の可能性を検討

### 【基準地点玖村より下流域】

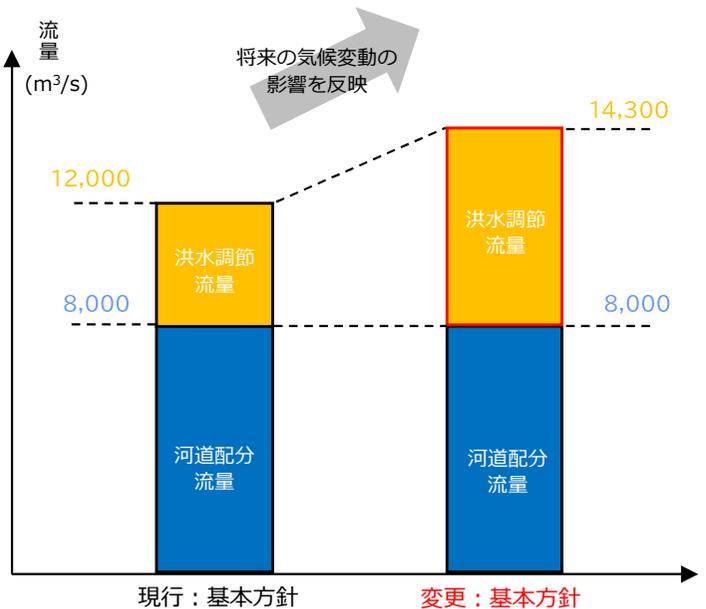
地域社会への影響や河川環境・河川利用への影響等を踏まえ、古川合流点から下流及び放水路の河道配分流量の増大の可能性を検討

### 下流デルタ域



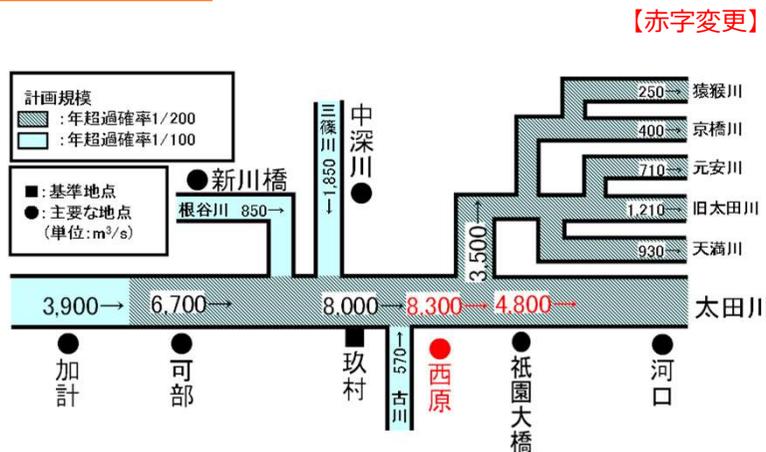
## 河道と洪水調節施設等の配分流量

<基準地点：玖村 (1/200)>



※基準地点玖村の計画規模1/200は維持

## 計画高水流量図



基準地点	基本高水のピーク流量 (m <sup>3</sup> /s)	洪水調節施設等による調節流量 (m <sup>3</sup> /s)	河道への配分流量 (m <sup>3</sup> /s)
玖村	14,300	6,300	8,000

## 増大する外力への対応

- 沿川の土地利用を考慮しつつ、支川も含めて流域全体で貯留・遊水機能を確保
- 既存ダム等の洪水調節機能の最大限の活用も含めて貯留・遊水機能を確保
- 資産が集積するゼロメートル地帯であり、放水路及び市内派川からの氾濫・内水による浸水被害の最小化の取組を推進
- 古川合流点から下流及び放水路の流量を増大

